

森林づくり

生と地域の活性化を目指して～

富士山に寄せて

「感謝と報恩の活動」

オイスカ・インターナショナル総裁

中野良子

富士登山を体験したのは、年齢も50代後期に入っていることでした。「今この機会を逃したら一生夢に終わるだろう」という熱い思いだったことを覚えています。

さはあれ現実には、想像以上の苦しい思いもしました。小休止の度に仰ぎ見る空から滴り落ちそうな星たちと、その中をさーっと走りぬける流れ星の不思議さに我を忘れて見入り、ひと時のやすらぎを感じ、やっとの思いで頂上に辿りついた時のうれしさが思い出されます。この苦しくも貴重な体験により、その後、同じ富士の山を遠くで眺める時、実感を伴った幸せ感に満たされます。霊峰富士と称えられるこの山は、登山を経験した今、木花咲耶姫このはなさくやひめが宿るご神体だという一般的な信仰が素直に伝わってきます（実際はふもとの浅間神社のご神体が木花咲耶姫なのです）。自然の中でよろずの生命とながりに生きてきた日本の先祖たちは、自然の美

特集

富士山の

～日本の象徴、富士山の美しい森の再

目次

- ～オイスカが目指すもの～ 協働による100年の森づくり…………… P.8-9
- ～森づくりの指針～ 背景と目指す森林の姿…………… P.10-11
- お楽しみマップ／「富士山の森づくり」参加のススメ…………… P.12
- 富士山で広がる環境保全活動／コラム…………… P.13

©R. CREATION / SEBUN PHOTO / amana

しきもの、大いなるもの、恐ろしきもの、奇なるものに神の存在を感じ、それぞれに名前を贈り祀ってきたのです。

自然の海川山野はじめ人間万物を産み出した「産業」の起源は、わが国の古典『記紀』にも伝えられる宇宙混沌の初期の時代から「陰陽の産びの神」のご活動による産びの業」の流れの延長線上にあります。美しい富士の山も天地に通う大生命の流れを汲む地球産業の実りの一つとしてみる事ができます。あたかも子供が母の懐にすがるように富士のお山に抱かれに行きたいというのも、生命のつながりを慕う本能的なものなのでしょう。

現在、富士山が世界遺産に認められない理由が、開発が進みすぎていること、ごみ処理等が不完全であるため、ここにも日本人の自然を尊ぶ心の衰弱とモラルの低下、それを復活させる団結力の弱さが問われます。海外での国際協力と同様、国内でも感謝と報恩の活動として「富士山の森づくり」が多くの協力参加を得て展開されることをまことに喜ばしく思います。